

## 第24回釜石市郷土芸能祭

12月8日 [釜石市民ホールTETTO]

昭和52年に始まり、おおよそ2年に一度開催されている郷土芸能祭には市内から4団体と、浦浜念仏剣舞（大船渡市）が出演し、市民らはバラエティに富んだ舞を堪能しました。瓦田会は釜石が誇る文化の一つ、正調釜石浜唄などの踊りを披露。県指定無形民俗文化財の浦浜念仏剣舞は、震災犠牲者の冥福を祈る塔婆を立て、踊り手が焼香をする念仏踊りを披露しました。



芸者として活躍した故藤間千雅乃さん、故木皿宏子さんの遺志を継ぐ瓦田会



「応援が選手の力になる。パラ競技の会場に来て」とPRしたアスリートの皆さん

## 輝け!! 未来へ!! 東北パラの星

12月14日 [釜石東中学校体育館]

(一社)チームスマイルによる「わたしの夢」応援プロジェクトとして開催。著書「五体不満足」がベストセラーとなった乙武洋匡<sup>おとけひろただ</sup>さんの進行で、東北のパラ・アスリートの齋藤由希子さん（やり投げ）、萩野真世さん（車いすバスケットボール）、村田奈々さん（水泳・釜石市）が各競技のルールや競技を始めるきっかけを紹介しました。乙武さんは「3人のアスリートから前向きな姿勢を学ぶことができた。釜石だからできることで地域を盛り上げてほしい」と訴えました。

## 釜石市民体育館こけら落としイベント 岩手ビッグブルズ対金沢武士団

12月14・15日 [市民体育館]

バスケットボールBリーグ3部の岩手ビッグブルズ対金沢武士団の試合が行われました。釜石で初めて開催されるプロバスケットボールの試合に14日は1,117人、15日は1,213人の観客が来場。間近で繰り広げられる攻防に手に汗を握り、アリーナMCのリードで体育館が一体となり声援を送りました。真新しい体育館での試合は、両日ともに岩手ビッグブルズが勝利を収めました。



地元釜石での凱旋試合となった澤口誠選手(背番号1)、大声援を受け攻守にわたり活躍しました

## 第42回「かまいしの第九」演奏会

12月15日 [釜石市民ホールTETTO]

1978年からスタートし42回目の公演となった「かまいしの第九」。約170人の演奏者が「歓喜の歌」を響かせました。最初のステージでは釜石中2・3年生も出演。オーケストラに合わせて「手紙～拝啓十五の君へ～」 「群青」の合唱を披露し、満席の観客へ歌声を届けました。また、アンコールでは客席も声を合わせ「歓喜の歌」で会場が一体となりました。



オーケストラと共演した釜石中の2・3年生約200人



歓喜の歌を響かせたかまいし第九のメンバーと拍手を送る観客ら

## 釜石まちづくりセミナー 第1回かまいし未来づくり委員会

12月26日 [釜石市民ホールTETTO]

令和3年度からスタートする新しい総合計画の策定に向け、市民と行政の協働の仕組みを確立しながら市民主体の計画づくりを進めて行くことを目的に開催されました。岩手県立大学総合政策学部教授の吉野英岐さんが講師を務め、地域再生の主旨は住民であり、住民自身がアイデアを出し地域づくりをすることが大切だと講演。

セミナー終了後に第1回未来づくり委員会が開催され、62人の委員に委嘱状が交付されました。委員会には、地域づくりや危機対応など6つの部会が設けられ、今後協議が進められます。



部会ごとに別れた委員は、今後ワークショップなどの協議を重ね、総合計画の素案を市長に提言します

## 鉄の学習発表会

11月30日 [イオンタウン釜石]

鉄の週間事業に合わせ、鉄の学習発表会が開催されました。釜石商工高、釜石中、甲子中の生徒が「釜石の鉄に関する研究」の成果を発表。甲子中の生徒は「たたら製鉄」を実際に体験し、鉄づくりの難しさや先人の苦勞を体験することができたと発表しました。



近代製鉄の父：大島高任に扮して発表する甲子中学校の生徒

## 鉄の歴史館名誉館長講演会、鐵の鉄道展

12月1日 [鉄の歴史館]

鉄の歴史館名誉館長の小野寺英輝さんが「官営製鉄所と第三の鉄道」というテーマで講演。釜石鉄道が明治13年に日本で3番目に運行（貨物専用）されたことや、使用された機関車の行方など、釜石の鉄道は製鉄の歴史と深く関わっていることを紹介しました。参加者からは橋梁の名称などの質問が出され、関心の高さがうかがわれました。



1月13日まで特別企画展「鐵の鉄道展」が開催されました

## 独自ボランティア いわて・かまいしラグビー応援団 サクスパティー

12月1日 [釜石市民ホールTETTO]

ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会が募集した「いわて・かまいしラグビー応援団」には、414グループ、延べ2万8,829人が参加。大会の機運醸成やおもてなしなど、積極的に取り組みました。サクスパティーでは、応援団を代表して3人に感謝状が贈られた他、先進事例からボランティア活動を考えるトークセッションも。ミニワークショップでは活動の振り返りや意見交換しながら、これからの釜石やボランティア活動への思いを宣言しました。



「釜石の魅力を発信する」「カナダ対ナミビアの実施」など熱い思いが寄せられました

## ひとつの街～鶴住居トリステーションフェスティバル～

12月1日 [うのすまい・トモス]

ラグビーワールドカップで盛り上がった活気を、未来のまちに続けていこうとする有志が協賛金を集めて開催。市内外の食と音楽、防災を通じた大人も子どもも楽しめるイベントで大勢の来場者でにぎわいました。未来のいのちを守る伝承活動を実施した、釜石高、釜石東中の生徒による防災ウォークラリーでは、地震時の正しい行動や、災害伝言ダイヤル「171」をクイズで出題。参加した子どもは楽しみながら防災の知識を学びました。



市内小中学生約50人が「ありがとうの手紙 #Thank You From KAMAISHI」を合唱



東日本大震災での避難を描いた絵本の読み聞かせも行われました

## 交通安全功労者等表彰式

12月3日 [ホテルサンルート釜石]

長年にわたる交通事故防止の啓発、見守り活動やあいさつ運動など交通安全への功績を称え、3人と6団体へ、釜石市交通安全対策協議会から表彰が贈られました。受賞者は次の通り。交通安全功労者：伊藤保夫さん(69)、佐々木英士さん(77)、優良運転者：森覚さん(51)、交通安全模範事業所・模範校：(社福)清風会、カメイ物流サービス(株)釜石営業所、(学)釜石学園認定こども園正福寺幼稚園、(社福)釜石愛育会中妻子供の家保育園、双葉小学校、大平中学校



無事故を誓った受賞者の皆さん